

「学校生活で気になることを調べて、報告する文章を書こう」

～目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く～

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題が見られました。そこで、本授業アイデア例では、調べて分かったことを整理したり、自分の考えの理由や事例としてふさわしい事柄を選んだりしながら、自分の考えを明確にして書くことについての指導事例を紹介します。なお、本授業アイデア例は、第5学年以上を対象としています。

授業アイデア例

〈主な学習活動〉

〈指導上の留意点〉

学習過程

第一次

学校生活で気になることを調べて、報告する文章を書く

- ① 学校生活をよりよくするために、気になることを調べて、学級の友達に報告する文章を書くという課題を設定し、学習の見通しをもつ。
- ② 報告する文章のモデルを読み、構成や書き方の特徴を確かめる。

■ 委員会活動での取組などから、学校生活で気になることについて話し合う場を設け、調べて学級の友達に報告するという学習の計画を立てるようにする。

■ 本問をモデルとして示し、報告する文章の大まかな特徴を捉えることができるようにする。（構成や書き方の工夫については、必要に応じて参考にすることができるようにする。）

第二次

- ③④ 報告する題材を選び、調査の内容や方法を決め、調べる。
- ⑤ 調べて分かったことを整理し、自分の考えをもつ。
- ⑥ 必要な事柄を取捨選択しながら、自分の考えを明確にする。
- ⑦ 報告する文章の全体の構成表を作る。
- ⑧⑨ 報告する文章を書く。

- 調査の結果を予想しながら、調べる観点（数、種類、時、場、原因など）を決めるようにする。その際、教師が観点を例示したり、学級全体で案を出し合ったりして、参考にすることができるようにする。
- 報告する内容に照らして、必要な情報を得ることができたかどうかを確かめるように促し、必要があれば追加調査を行うようにする。
- 調査の結果から「分かったこと」を付箋などを用いて整理しながら、自分の考えを明確にすることができるようにする。
- 本問をモデルとし、報告する文章の特徴を踏まえて、構成表を作ることができるようにする。
- ②時で学習した書き方の特徴を参考にして、事実と考えとを区別しながら書いたり、図表やグラフを用いて書いたりすることができるようにする。

第三次

- ⑩ 互いに読み合い、単元の学習を振り返る。

■ 完成した報告する文章を読み合い、本単元で身に付いた力や、今後の学習などに生かしたいことについて振り返ることができるようにする。

第二次⑤／10

調べて分かったことを整理し、自分の考えをもつ

Aさんの考え

分かったことを結び付けて見ていくと、けがを減らす解決策が見付かるかもしれないな。



けがは自分だけが原因で起こるわけではないんだな。



学年とけがの件数は関係ないかもしれないな。



多くの人が集まって活動することとけがが関係しているかもしれないな。



どんなことが分かったのか整理してみようかな。



Aさん

けがの起こった原因

- ・人とぶつかった、飛んできたボールが当たったなど
- ↓他の人も関わること

学年別のけがの件数

四月から十月

- ・六年（四十二件）
- ・五年（三十七件）
- ・四年（三十五件）
- …
- ↓学年ごとの差はあまりない

けがの起こった場所

- ・校庭、体育館、教室など
- ↓多くの人が遊んだり学習したりする場所

けがの起こった時間

- ・休み時間など
- ↓多くの人が自由に行動するとき

【調べて分かったことのまとめ】

【調べたこと】

- ・けがの起こった時間
- ・けがの起こった場所
- ・学年別のけがの件数
- ・けがの起こった原因

【調べたこと】

Aさんの気になること
「学校内で起るけがが増えていること」

本授業アイデア例

活用のポイント！

- 調査したことについて報告する文章を書く活動では、児童の「調べて報告したい」という思いを大切にすることが重要です。そのためには、身近な生活に題材を求めたり、調べる価値や報告する必要性が実感できる題材を選んだりすることが考えられます。
- 調査の段階ではグループで協力して調べ、記述の段階では個人で考えを深めながら書くようにするなど、学級の実態に応じて工夫することも効果的です。

課題の見られた問題の概要と結果

学習指導要領における領域・内容

① 調べたことを報告する文章を書く（「公衆電話」）

〔第5学年及び第6学年〕
B 書くこと ウ

- ① 三 正答率 **28.9%** 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2 調査の内容と結果」の（1）と（2）で分かったことをまとめて書く

第二次⑥/10

必要な事柄を取捨選択しながら、自分の考えを明確にする

取り除いた事柄

学年別のけがの件数
四月から十月
・六年（四十二件）
・五年（三十七件）
・四年（三十五件）
……
↓学年ごとの差はあまりない

けがの起こった原因

・人とぶつかった、飛んできたボールが当たったなど
↓他の人も関わること

けがの起こった場所

・校庭、体育館、教室など
↓多くの人が遊んだり学習したりする場所

けがの起こった時間

・休み時間など
↓多くの人が自由に行動するとき

分かったこと

「2 調査の内容と結果」

「3 調査の結果をもとに考えたこと」

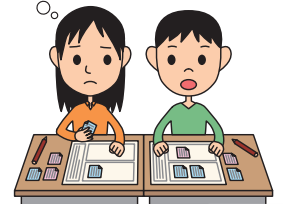
考えたこと

けがを減らすためには、自分が注意することはもちろん、その場にいる人みんながおたがいに気をつけることが大切だ。

これは、自分の伝えたいことに必要な事柄ではないから、取り除いてもよさそうだな。

【整理の状況】

調べて分かったことを整理して、自分の考えをピンクの付箋に書いて貼ろう。分かったことと自分の考えは、ずれていないかな。



ポイント

自分の考えをまとめる際には、事柄の内容を関係付けて考えることができるようにすることが大切です。また、選んだ事柄が自分の考えの理由や事例として、ふさわしいかどうかを吟味することも大切です。

第二次⑧・⑨/10

報告する文章を書く

3 調査の結果をもとに考えたこと

調査の結果から、けがは多くの人がいる場所や時間、自分以外の他の人の行動も関わって起こりやすいので、けがを減らすためには、自分が注意することはもちろん、その場にいる人みんながおたがいに気をつけることが大切だと考えました。

2 調査の内容と結果

(1) けがはどこで起こりやすいのか

けがは学校のどこで起こりやすいのかを、保健室の先生から見せていただいた資料で調べてみました。下の円グラフ（資料1）は、四月から十月までに起こったけがの発生場所とその件数の割合を表したものです。一位は校庭、二位は体育館、三位は教室で、この三つで全体の約八割を占めていました。

このことから、けがは、校庭、体育館、教室など、多くの人がいっしょに遊んだり学習したりする場所で起こりやすいということが分かりました。

(2) けがはいくら起こりやすいのか

次に、けがはいくら起こりやすいのかということについて、保健室の先生から見せていただいた資料で調べてみました。下の棒グラフ（資料2）は、今年四月から十月までのけがが、いつ何件起こったのかを表したものです。休み時間のけがが最も多く、全体の約半数以上でした。

このことから、けがは、先生といっしょに活動する授業中よりも、多くの人が自由に行動するときに起こりやすいということが分かりました。

(3) けがはなぜ起こったのか

わたしは、校庭や体育館でけがが、休み時間のけががなぜ多いのか、その原因を調べてみようと思いました。そこで、校庭や体育館で休み時間にけがをしたことのある友達に、けがをした原因を聞いてみました。その結果をまとめたものが、下の表（資料3）です。「人とぶつかったから」や「飛んできたボールが当たったから」などの回答がありました。

このことから、けがは、自分だけではなく、他の人の行動も関わって起こることが多いということが分かりました。

資料1 けがの発生場所と発生件数の割合

資料2 けがの発生時間とけがの発生件数

資料3 けがをした原因のまとめ（複数回答）

けがをした原因	人数(人)
人とぶつかったから	18
飛んできたボールが当たったから	12
遊ぶ道具を正しい方法で使っていなかったから	7
鉄棒やジャングルジムなどの道具から手をすべらせて落ちたから	4
その他	8

けがの多い場所や時間や友達を伝わりやすくするために、図や表を使おうかな。どれくらい多かったのかということや割合についても伝えたいから、グラフにして示すとよさそうだな。



けがをした原因についての回答結果は、表にまとめて示そうかな。

ポイント

記述の際は、調べて分かったことと自分の考えを区別し、文末表現などに気を付けて書き分けることが大切です。また、読み手に伝わりやすい記述の仕方を考え、必要に応じて図表やグラフを用いるなど工夫して書くことも大切です。